

パレスティナ問題はなぜ生まれたのか2

2. パレスティナ問題の発生

a. イギリスの三枚舌外交ーパレスチナ問題の原点

1914年にはじまった[1]は、中近東にとってもユダヤ人にとつても大きな転機となった。この当時、西アジアを支配していた[2]帝国が[3]側になったため、イギリスはこの地の[4]人勢力を利用しようとした。このためイギリスはアラブ人有力者ハーシム家のフサインとの間で1915年[5]協定を結んだ。これはアラブがオスマン帝国に反乱を起こす代償としてイギリスが6を支持するという内容であり、以後、アラブ側はイギリス人将校[7]の協力も得て、「アラブの反乱」をおこした。

この一方で、1917年イギリスは、[8]人グループへの書簡で、9を支持を表明した。[10]宣言である。これをうけ「イギリス政府の支持を得た」と考えたユダヤ人たちは戦後つぎつぎと[11]をめざすようになった。彼らは[12]から土地を買い、今まで土地を耕していた[13]を追い出し、彼らを低賃金の雇用労働者として働かせた。こうしてユダヤ人とアラブ人との対立が激化していくことになった。

さらにイギリスは1916年[14]、ロシアとの間でトルコ領を分割支配しようという[15]条約を締結した。そして戦後には、この秘密条約に基づいて英仏両国は中東地区を分割支配し、イギリスとの約束にしたがって[16]人の独立国を建設しようとした動きはフランス軍によって鎮圧された。

こうしたなか、イギリスは妥協策としてヨルダン川の東側に[17]というアラブ人国家の建国を認めた。1930年代になると、ユダヤ人とアラブ人の対立が中近東諸国の対立に発展するのを嫌ったイギリスはユダヤ人移民を[18]するようになってきた。このため[19]での本格的なユダヤ人迫害をきらってこの地への移住をめざしたユダヤ人たちはどこにも上陸できず放浪を余儀なくされるという悲劇も発生した。

※イギリスが結んだ3つの条約

[20]協定…[21]人との間で22を認める。

[23]協定…[24]との間で25をはかる。

[26]宣言…27の樹立を支持する。

○第一次大戦後の中東

シリア・レバノン→ハーシム家のファイサルが[28]国家の独立を宣言
→[29]に鎮圧され、その信託統治領に→いったん独立承認

イラク→[30]の信託統治
→ハーシム家のファイサルを国王に親
英 国家樹立
トランス＝ヨルダン
→[31]の信託統治→ハーシム家のアブドゥラーを国王に親英国家樹立
アラビア半島→[32]、ハーシム家のヒジャース王国を倒し[33]を樹立

エジプト…イギリスの保護下におかれる→
[34]地帯に駐兵権を残す親英国家として独立



c. イスラエル共和国の成立とパレスチナ戦争

第二次大戦後、多くのユダヤ人難民が[35]移住を求めたが、イギリスはその入国を認めなかった。しかしナチスによる虐殺に同情する国際世論はユダヤ人の[36]に好意的であった。

1947年イギリスはパレスチナの[37]の放棄を決意し、パレスチナ問題を[38]に委託、国連は、パレスチナは56%の土地を1/3の人口の[39]に与え、他の44%を[40]人に与える。そして[41]は国際管理地区にするという分割案をを提示した。これには国連でも反対が強かったが[42]の猛烈な圧力でこれを承認させた。

分割案が可決されると、各地でユダヤ人とアラブ人との衝突が発生、パレスチナは事実上戦乱状態に陥った。このような中でイギリス軍は期限の3カ月前に撤退、[43]共和国が成立した(1948年)。

これに対しイスラエルを認めない[44]諸国は(1945年結成、エジプト・イラク・シリア・レバノン・サウジアラビア・ヨルダン・北イエメンからなる)はパレスチナに侵入、[45]戦争(第一次中東戦争)が発生した。この結果、イスラエルはパレスティナ全土の[46]%を占領、残りの部分はヨルダンが[47]を、エジプトが[48]地区を占領、パレスチナは3分割された。

この戦争の結果約100万ものパレスチナ人が土地を追われて[49]となり、ヨルダンやレバノンやシリアに流れ込んだ。ユダヤ人はアラブ人の資産を没収し、ユダヤ人による入植を開始した。

